

川崎病の病因および発症機序に関する免疫病理学的研究
(分担研究：川崎病の病因および発症機序に関する)
免疫病理学的研究

吉田 光昭

要約 川崎病患者のリンパ球を培養し、逆転写酵素の活性測定によりレトロウイルスの検出を試みたが、すべての例について陰性であった。

見出し語：川崎病，レトロウイルス

研究方法 川崎病患者の末梢血よりリンパ球を分離し，PHAおよびIL-2の存在下に培養し，毎日それらの培養上清から，超遠心によりウイルスを濃縮した後，ポリAをテンプレートとし，オリゴdTをプライマーとしてTTPのRNAへの取り込みによって，逆転写酵素活性の測定を行った。

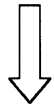
結果 日赤医療センターの柳瀬博士より供給された4例の川崎病患者について，検討した結果，いずれの場合にも，TTPの取り込みは空試験と同様の値であり，有意の逆転写酵素の活性は見出だされなかった。

考察 いずれの場合にもリンパ球は良く増殖したので，通常のレトロウイルスであれば増殖し逆転写酵素を産生することが期待される。従ってこれら陰性の結果は，レトロウイルスの存在の可能性が小さいことを示す。しかし，この実験では，リンパ球以外の細胞を検索していないこと，極めて少数の細胞のみが感染している可能性は否定できないこと，などからさらに別の検討が必要と思われる。

発表論文：特に無し

Abstract

Peripheral blood lymphocytes were isolated from 4 patients with Kawasaki disease in total, and cultured in the presence of PHA and IL-2. Every day, the culture fluids were removed, concentrated by ultra-centrifugation, and assayed for reverse transcriptase activity in the presence of poly(A) as template and oligo(dT) as a primer. All samples gave negative results in any time intervals of the culture.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 川崎病患者のリンパ球を培養し,逆転写酵素の活性測定によりレトロウイルスの検出を試みたが,すべての例について陰性であった。